

満州事変95周年

日中不再戦碑建立34周年記念のつどい

1931年9月18日、日本は中国東北地方瀋陽で「満州事変」を起こし、以後中国全土へ侵略戦争を広げて、中国の人々と国土、財産に甚大な被害をもたらしました。

侵略戦争の反省から、高知県では盧溝橋事件30周年の1967年に日中不再戦碑建立運動が起こり、1992年9月18日、城西公園に日中不再戦碑が建立されました。

今、世界ではロシアのウクライナ侵略や、イスラエルのパレスチナ民衆大量虐殺、アメリカ、イスラエルによるイラン攻撃と戦火が広がっています。

日本では、高市首相の「台湾有事は日本の存立危機事態」との発言で、日中関係が極めて険悪になりました。さらに政府は軍備増強を進めて、再び戦争への道を歩もうとしています。

日本は憲法9条と、日中平和友好条約にもとづいて、平和をまもるために努力しなければなりません。

皆様のご参加をお願いします。

日時 2026年9月13日（日） 午前9時～10時

ところ 高知市城西公園桜馬場 **日中不再戦碑前**

◆ 主催者あいさつと日中戦争犠牲者への黙祷

◇ スピーチ **岩佐和幸さん**（高知大学教授）

◆ 太極拳演技

※ 小雨決行 雨天の場合は、平和資料館草の家（第六小学校南）で集会をします。



日本は日清戦争以来、中国に対して侵略戦争を続け、特に1931年の「満州事変」以後、15年間に及ぶ戦争は人道を犯す三光作戦などによって一千万人以上の中国人民を殺傷した。この碑は日中国交回復の20周年にあたり、侵略戦争に対する反省の証として、またゆるぎない友好の礎とするために建立された。

（碑文より）

共催：日中友好協会高知支部 平和資料館・草の家

連絡先：Tel. 088-875-1275（平和資料館草の家 高知市升形9-11）